

# 千布小学校だより

8月号 R1.8.23  
天童市立千布小学校  
校長 三好 義宏

## 学校の宝物

21日に始業式を行い、千布小84日間の2学期が始まりました。子どもの笑顔が校舎に戻ってきました。始業式での校長講話を転載いたします。

今日は宝物の話をしていきます。世界で一番広いお墓はどこにあるか知っていますか。それは、大阪府にある「大仙古墳」です。1600年ほど前に作られた大仙古墳はどのくらい広いかというと、東京ドーム2個分の広さです。縦の長さはというと、公民館前の千布小南門からとことこ歩き始めると、原町の佐藤酒屋さんぐらいまでが、一つのお墓なのです。ゆっくり一周歩くと、1時間はかかります。それが、最近、世界の宝物になりました。そんな、大きくて広いお墓が、世界に認められる宝になったのです。



世界の次は、日本の宝物を紹介します。山形県の舟形町の土の中から発見された、土偶です。土偶とは、縄文時代という魚や獣を捕って食べていた私たちの先祖がつくった、土の焼き物の人形のことです。今から4500年前に作られた土偶には、とっても素敵な名前がついています。「縄文の女神」です。国の宝なので、国宝と呼ばれ、山形県にある6つの国宝のうち一番新しく認められたものが、縄文の女神です。普通は、山形県立博物館で展示されています。



日本の次は、山形県の宝物です。それは、校長室にあるものです。1年生が学校探検で来た時に、私が説明した、今野忠一さんが描いた絵「月山」です。今野忠一さんは、100年ほど前に上荻野戸の今野ショップの近くで生まれ、今から13年前に亡くなられた、山を描かせたら日本一と言われた画家です。千布小学校の卒業生ですので、皆さんの大先輩です。今野さんの娘さんから、皆さんにハガキが届いていたのを見つけました。読ん

でみます。「父は、小さい時から絵が大好きだったようです。皆様も、好きなことを極めて、ご自分の一生のお仕事に役立てることが出来れば、人生も楽しく深くなりますね。」今野さんは、子供のころから、絵が大好きだったようです。

最後は、学校の宝物です。何だと思いませんか。それは、もちろん124名の皆さんです。無限の可能性のある皆さんです。磨いている途中の宝石の原石とも言えるでしょう。たとえば、世界一の建物を作る技術者になっているかもしれません。みんなから美しいと言われる作品を作る芸術家はどうですか。大好きなサッカーを続けて、モンテディオ山形でJリーガーになっているかもしれません。今野忠一さんの娘さんの言葉にあるように、好きなことに一生懸命になれる、千布小の子どもになってほしいです。

2学期は、好きなこと、夢中になれることを、見つける学期にしてください。



「2学期がんばりたいこと」 4年 後藤 天斗  
(始業式代表の言葉より)

2学期がんばりたいことが3つあります。

1つ目は、わり算の筆算です。理由は、たしかめを忘れて、答えをまちがえたことがあったからです。1学期は、苦手だった漢字を自学でいっぱいしたので、全校テストで90点をとることができました。だから、わり算も計算ドリルを自学でたくさんして、得意になりたいです。

2つ目は、委員会活動です。ぼくは、図書委員なので、中間休み遊びたいのをがまんして一度も休まないで図書室に行きました。かりに来てくれたみんなが笑顔になって、うれしかったです。これからも、たくさん本をかりてくれるように、当番をがんばりたいです。

3つ目は、育てた紅花でもう一回ゼリーを作ったり、ハンカチ染めをしたりして、紅花の事を知りたいです。